

会 議 報 告 書	
会 議 名	平成30年度第2回草津市社会教育委員会議
日 時	平成31年2月28日(木) 自 10時00分 至 12時00分
場 所	草津市役所4階 行政委員会室
出 席 者	委員：委員長、副委員長、伊庭委員、浜田委員、北川委員 飯田委員、石本委員、鈴木委員、小寺委員、山本委員、 鈴鹿委員、永野委員、武井委員、大東委員 事 務 局：相井生涯学習課長、宇野生涯学習課係長、 奥田生涯学習課主任 傍 聴 人：なし
会議関係書類	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (別添のとおり) <input type="checkbox"/> 無

1. 開会

【事務局】

おはようございます。

本日は、お忙しい中、早朝より御出席賜りましてありがとうございます。平成30年度第2回草津市社会教育委員会議を開催させていただきます。本日は、委員16名中10名の皆様に御出席いただいておりますことをこの場で報告をさせていただきます。また、本会議は草津市市民参加条例により、市民の皆様に会議を公開することになっておりますこと、あらかじめ御了承願います。

本日は、ただいまのところではございますが、傍聴人はいらっしゃいません。

それでは、早速ですが議事に移らせていただきます。以後の進行につきましては、委員長にお願いをいたします。よろしく申し上げます。

【委員長】

皆さん、おはようございます。

それでは、早速でございますけれども、次第に従いまして、議事を進めていきたいと思っております。まず、協議事項の前に報告事項としまして、去る2月1日、湖南甲賀地区社会教育委員連絡協議会が湖南市で開催され、うちからH委員に参加いただきましたので、簡単にでございますけれども、御報告をよろしくお願ひしたいと思っております。

【H委員】

内容としては講演、情報交換会で、「子どもを真ん中に置いた地域づくり」と「遊べる・学べる近江子ども食堂の取り組みについて」ということで、滋賀県福祉協議会の谷口郁美さんという方が、御講演いただいたわけです。

結局、今、子どもの貧困が言われる時代になり、この地域の食堂、子どもたちのく

つろげる場所、あるいは横の繋がりができるような形をつくっていききたいという内容のお話でございまして、現在、県内では115カ所、前年度は73軒、その前の年は30軒だったのが、急速に場所づくりと、それから子どもたちとの繋がりができる場所をつくってあげた。

一応当初は、例えば50円とか100円とか、有料でやっていたけれど、それも難しいということがわかって、例えば、兄弟が二人来て、上の子がお金を勘定したらちよっと足りなかったんで、二人とも帰ってしまったとかいった事例の報告や、そういったことを克服して、今活動が続けられているというような御説明があったわけでございます。

県の社会福祉協議会では、はぐくみ基金というふうなものをつくっておられるようで、広く寄附を募集されているというようなこともあわせて考えると、大変な事業を、毎日その食堂を開いているわけではなくて、月1日とかであっても、基本的には財源がないとなかなかやれないということと、それに対してお金だけではなく、家庭菜園などでお作りになっているものを、この食堂に供給されているという方もいらっしゃるようでございます。大体、そういうふうなお話でございました。

以上でございます。

【委員長】

はい、どうもありがとうございました。

【事務局】

少し補足してよろしいでしょうか。

この湖南甲賀地区社会教育委員連絡協議会の今後の取り組みが見直されましたので、御報告をさせていただきます。

これまで年1回程度、地区・ブロック単位で研修会などを開催してきましたが、幸い湖南甲賀地域につきましては、例えば山間地のように特別な対応をしていかなければならないというようなブロックではございませんので、圏域の会議、あるいは圏域の研修会でこの機能が変われるということで、全市参加をしております甲賀・湖南の全市の委員長様のほうの御意志によりまして、このたび解散する運びとなったということだけお伝えをさせていただきます。

【委員長】

今の貧困を抱える問題ですとか、本当に深刻な場合は福祉問題になってきますが、そこに対して社会教育は何ができるのかといったところが大きなテーマになっておりまして、私は滋賀県の社会教育委員会の議長も務めておりますけれども、今年から来年にかけての県の社会教育委員会研究講座は、まさにそこをやっておりまして、福祉と社会教育の部分で、社会教育がどういった役割を果たすのかといったところを我々は調査をしているわけなんですけど、非常に近々の課題だというふうに思います。

今のH委員の報告に対して、何か委員の皆さんから質問していただきたいと思いません。

それでは、早速ではございますけれども、今日の協議事項に入っていきたいと思えます。

去年まで2年間にわたりました前期の社会教育委員会の中で、「みらくるカレッジ」という構想を考えておりますが、いきなり全学区にそれを浸透させていくのはなかなか難しいだろうということで、まずモデル的にできるところから「パイロットモデル」を設置しまして、始めてみようという御提案が前回あって、可決されましたが、具体的な地区ですとか内容について大分進んでこられたところですので、今日はまず事務局からそのあたりの進捗状況について御説明いただきまして、その後委員のほうから御意見をいただきたいと思っております。

それでは事務局のほうから、まず御説明をお願いいたします。

【事務局】

それでは、資料2を御覧いただきたいのですが、前回の社会教育委員会議では、平成31年度からパイロットモデルを幾つかの地域で推進し、地域の課題と強みを地域の方が掘り起こし、課題解決に向けた体系的な学びの機会を創出しようと提案をしたところでございます。

パイロットモデルのコンセプトといたしましては、大きく2点ございました。1点目は、地域住民の繋がりを創出するため、これまで地域まちづくりセンターを利用されたことがない方に利用していただく機会とする。

2点目は、行政が一方的に考えたものを地域に押しつけるものではなく、地域に継続して取り組んでいただくために、一定、方向性を地域にお示しした上で、地域が主体となって講座の組み立てを考えていただき、地域の実態にあった体形的な学習の機会とする、といったものでございました。

前回の社会教育委員会議の後、幾つかの地域まちづくりセンターにお伺いし、パイロットモデルのコンセプトを御説明し、御協力いただける二つの地域まちづくりセンターと、現在、調整をしているところでございます。本日は、二つの地域のうち1つから、地域課題を解決するための講座の案の提示がございましたことから、御紹介をしたいというふうに考えております。

それでは、資料1を御覧いただきたいと思えます。

こちらの地域では、ターゲットを「地域まちづくりセンターを利用したことがない地域住民」として位置づけ、目標としては、2点設定されております。

1点目は、「学びの場を通じて、住民相互の繋がりを強化」、2点目は、「住民が主体的に課題を発見、共有、解決していく持続的な地域づくり」とされています。進めるに当たっての課題として、「学びへの参加のきっかけづくり」と「世代間交流や同世代交流を深め、地域づくりのきっかけづくり」を挙げておられます。この課題を解決するために地域で検討された講座を、次のページに示しております。

こちらのほうは、歴史をテーマに講座を検討されており、①の歴史講座では、地域の方の力を借りられ、まずは、自分たちの住んでいる地域のことを知る機会とされています。

次に、②の紙芝居講座では、紙芝居を作成する手法を学ぶとともに、①の歴史講座で学んだ内容を紙芝居製作に生かすこととされています。

次に、③の紙芝居製作では、地域住民の参画を得て委員会形式とし、4回程度の委員会を通して紙芝居を完成させる予定となっております。

紙芝居を選定された理由といたしましては、近年は電子機器が普及し、当たり前のように子どもたちの身近にあるものとなっております。今の子どもたちが経験したことが少ない紙芝居を利用し、地域まちづくりセンターの印象を子どもたちにも強く残したいという思いがあることから選定されたところでございます。

次のページでは、防災をテーマとして講座を検討されておまして、これまでの全員を対象にした講座だけではなく、これまで関わりの少なかった子育て世代を対象にした子ども向けの講座を新たに設けられているのと、高齢者向けの講座や、全体的な講座を実施される予定となっております。

この講座では、座学のみでなく、地域住民の参画を得て、「防災かるた」を作成されることとなっております。かるたの読み札は、全てで46枚でございますが、地域住民から公募により募集し、全4回の委員会で地域住民の参画により製作を行う予定をされております。かるたの活用については、毎年地域の書初め大会時や、わんぱく広場のお楽しみ会の際に防災かるたを利用し、日ごろから防災について、遊びながら学ぶ機会として検討されているとのことでございます。また、学区内にとどまることなく各町内会やほかの13小学校にも利用していただくために、かるたを配布することを現在検討されているところでございます。

非常に簡単ではございますが、事務局からは以上でございます。

【委員長】

ありがとうございます。

この事業は、来年度から始める。

【事務局】

そういうことです。

【委員長】

予算はどこから出るんですかね。

【事務局】

予算は基本的には地域まちづくりセンターで予算化をさせていただいておりますし、事務局のほうでも、講師謝礼ということで予算化はしているところでございます。

【委員長】

まず地域の歴史を知って、それから防災の問題に、かた苦しいことだけではなくて、防災かるたを作ることで防災を学んでいこうと、そういう試みをしていこうというふうに思っているわけです。

C委員から、一言ずつ感想でも結構でございますので御意見をお願いします。

【C委員】

歴史講座の紙芝居というところで、ヨーロッパの教会に行きましたら、私はキリスト教徒ではないのですが、聖書の絵が飾ってあり、字が読めない人でも話がわかるようになっていたところが思い浮かんだので、この紙芝居をつくられた後にも何らかの方法で飾られると、字の読めない子どもたちにも愛着が沸くのではないかと、少しひらめきました。以上です。

【委員長】

おっしゃるとおり、防災などでは外国人の方の問題がありますよね。言語が通じないとか、国際協力のほうで取り組まれてると思いますが。

【H委員】

私は少ない経験ですけれども、小学生は4年生から上と、3年生から下でかなり理解の度合いが違う、漢字がわかるか、わからないかというのがポイントになっているような気がするんです。

それから、もう一つの違いが性格的に言うと、3年生以下は紙芝居とか、読み聞かせとかには、もう目を丸くしてじっと聞くそういう姿が思い浮かぶんです。4年生から上の子は、そんなことは知っているという感覚でくる可能性もありますね。そんなことからすると、タイトルの的には、歴史とか、防災というのは、非常にいい選択かなと思うので、それをその対象相手向けにどういう姿に作り上げるのかというところと、この前、子ども会で手品をやってもらったのですが、見て、はっはっと言って、不思議そうな顔をしているだけでは本当にだめだなと。一つ自分で手を動かして体験してみるような姿、かるた作りもそんな姿があればと、今思ったところです。

【E委員】

自分たちでつくって学びにつなぐのは、子どもたちを集めてやろうってなってくれる、男の子も女の子もうまく参加できるような形をつくっていけばいいのかなと。防災などに興味を持つというのもいいと思いますし、地域の防災訓練で消防署員の方とか、レスキューの方が来ての体験など、分野分野でうまく興味を持ち参加できる形がいいのかなというふうに思いながら聞いていました。

【委員長】

はい、ありがとうございます。

○委員、お願いします。

【O委員】

ちょっと素直に思ったことですが、対象年齢とかを考えて、例えば防災のことをするにしても、今おっしゃっていた小学生以上、高学年は、体験型にしないといけない。そういうふうになるのであれば、男の子でも、女の子でもみんなと一緒に活動を通じてやっていく。

それから、今、小学生は学校でパソコンが入ってるので、みんなパワーポイントとかを使って、学校で発表とかをしているんですね。防災に関しても、自分でパソコン

を使って調べさせて、作らせる。宿題なども、みんな家でタブレットを使って調べています。4年生以上ならできるので、その辺を活用していったらいいのではないかと思います。

親子世代に関しては、未就学児さんとか、幼稚園児さんとかは、なかなかまちづくりセンターに足を運んでももらえないというのがあるんですけども保育園が増えたこともあって、もうゼロ歳、1歳ぐらいから保育園に行っています。そうなってくると、なかなかまちづくりのところに興味を持ってもらえないじゃないですけども、どんなに告知をしても、それを見てもらえる機会がないっていうところが大きな問題だと思います。

未就学児さんを対象にしたサークルなどでも、告知の問題でとても悩んでいるところはあります。広報などに入れても、例えば自治会に入っていないとか、広報自体を見られないところもあるし、なかなか、アプリとかにしても、全然アプリを使えない人もいらっしゃる、今、極端で、私たちの世代でもパソコン使える人と、使えない人の差が大きいです。どういうふうに皆さんに告知していくかっていうのが大事なかなと思いました。

【委員長】

幾つかの貴重な御意見をいただきましたけれども、何か事務局、その辺の、例えばターゲットの人とか、方法ですとか、その辺のお話はされていますか。

【事務局】

ターゲットについては、小学校の高学年というよりは、就学前や小学校の低学年ということで、1年生から3年生をメインターゲットとして考えているということで聞いているところでございます。

広報の手法といたしましては、おっしゃるように、広報誌を作成してもなかなか情報がいかなかったり、なかなか読んでいただけないという部分はあるんですが、今の既存の部分を生かしながらも、事務局で考えているのが、中間支援組織のコミュニティ事業団の協力を得ながら、そちらのほうの広報誌であったり、ホームページの掲載であったり、市のほうも一定協力をさせていただいたり、あとは「えふえむ草津」ということで、ラジオで流していけたらと考えているところでございます。こちらについては、地域の方と調整しながら検討していきたいというところでございます。

【委員長】

はい、ありがとうございました。

M委員お願いします。

【M委員】

紙芝居制作の話聞いて、私も日ごろ小学校にいますので、地域の方で本の読み聞かせのサークルが学校に来てくださって、その方々が読み聞かせだけではなくて、大型紙芝居を作って、子どもたちに披露するという機会を学校でやってくださって、その制作課程を子どもたちが見られる場所でやってくださっているんですが、ガラス張りの教室で制作をしてくださっているの、子どもたちは何を作っているのかなとか、楽しみにしながら見ているのですが、きっとその中にはやりたいなと思っている子がいるのだらうと思いつつ見えています。提供されたものを見るのではなく、子どもたちも関わりながらやっていくのがいいだらうと思いました。

防災の件は、学校の中でも防災訓練などをやるのですが、特に低学年は、流れに任せてやっているところがあって、先生方は一生懸命作られるが、意識的にはまだまだのところがある。地域からこういうのが出てくればいいなと思いました。

以上です。

【委員長】

はい、ありがとうございました。

J委員、お願いします。

【J委員】

私もこういう取り組みは大変いいことで進めていったらいいのではないかと思います。ターゲットにされている地域まちづくりセンターを利用したことがない地域住民って、相当おられるのではないかと思います。多分いろいろな事業をやっておられるんですが、結局それに興味を持ってもらえるかどうかという問題になると。参画されている方は、いろいろな地協の役員とか、役員に関連の方が結構多いのではないかと思いますし、子どもに参画させるのはやっぱり親が興味を持って連れて来るみたいところがないと、子ども自身がそれをやりたいというような話になってないと思うので、興味を持ってもらう方向について工夫するほうがいいと思います。

特に子育て世代の子どもと書いていますが、昔だと子育て世代はそういった学びじゃなく同じ世代の人らが集まりたいというか、サークル的に集まる場が欲しいという、昔そんなことをよく聞きましたが、草津はその役目を担うことがなかったって、今は栗東のほうに行っておられるとかそんなこともあったんですけれども、地域のまちセンでそのような役割を担えているのかどうかと疑問に感じているところがあって、その辺がどうなのかなというふうに思いました。

それともう一つは、歴史講座ですが、確かにターゲットはいいのですが、以前まちセン単位で「ふるさと絵図」か何かをやっていると思うんです。多分そこでは、お年寄りから子どもまで関わって、地域の歴史についてもやっていたと思います。そういう過去にやった材料をしっかりと生かすべきだという気がしております。

【委員長】

はい、ありがとうございました。

L委員、どうぞ。

【L委員】

私も基本的には非常にいいことだとは思いますが、やはり課題が学びへの参加のきっかけ作りだろうというふうに思いました。そこで、先ほどO委員がおっしゃっていましたが、子どもたちは今、自分たちで学ぶ手法を学んでいますので、小学校3年までを対象とか限定にしないで、特に小学校の子どもたちのパワーって結構あると思いますので、彼らのパワーを信じて、彼ら主体で、例えば紙芝居をつくっていくとか、いわゆる原画というか、モデルというのか、そういうのはタブレットで彼らは素晴らしいものを作りますし、いろいろなものをひっぱりってきます。著作権上のことは教えないといけないでしょうが、それを元に今度は先ほどおっしゃってましたように、手書きの原画ができ上がり、それがどこかに原画は展示されているという機会も生かすというような形で、防災のかるたもそうですけれども、大人が子どもたちに何かを伝えたいという、こちら側からスタートじゃなく、子どもらにやらせてみる。大人からイメージしているゴールでなくてもいいと思うんです。彼らが作り上げてくるものが。どういう呼びかけをするかっていうところがポイントになってくるとは思いますが、子どものパワーを生かすっていうことを考えたらどうかと、最近思っているんです。

以上です。

【委員長】

これはそこへ導く講師陣は、どういう人を想定しておられるんですか。

【事務局】

基本的には地域の活力を上げるということでございますので、地域の方に講師になっていただいたり、委員になっていただくということで、地域のほうでは講師の目星だったり、委員になっていただく方の候補者は挙げていらっしゃるようです。

今、L委員がおっしゃっていたように、大人だけではなく子どもたちの参加も考えておりますので、委員会の中であつたり、札の作成には子どもたちも参画してほしいという思いを持っていただいているというところでございます。

原則は地域の中で、地域の人に関わるものですが、ものの内容によっては外部の人の協力というのにも必要なと思っております。例えば草津の場合であれば、渋川とかが既に絵本作りを、絵本作家の方に関わっていただきながら進めているという事例もございますので、そういったところも前例として、ノウハウのあるところに寄り添うような形で御支援いただくことは、私どもが中に入りながらつなげていけたらなとは思っています。

もう一点だけ、先ほどL委員さんがおっしゃった、鶏が先か卵が先かみたいな話になってくるかもしれないですが、参加するかどうかポイントだと最後におっしゃったんですけれども、僕としては小学校3年生までみたいな話をまちづくり協議会の事務局長がおっしゃっていたのを少し納得している部分がございます。小学校3年生ぐらいまではまだ親子の関係がある。親御さんのほうも一定教育熱心な方が草津には多いですので、子どもの発育に関して医学的なアプローチとか、そういう話を前段にすれば、もしかしたら、関わっていただける、親御さんのやる気スイッチが入るのではないかと考えてます。

先日、私ども問協とって問題行動の検討会のようなものが市役所のほうでございまして、そこで精神保健のお医者さんに御講演をいただきました。そのときにおっしゃっていたことが印象的で、子どもの成長過程において、おなかの中にいるときから実は脳というものは発達をしていますよと。子どもたちっていうのは、脳の発育っていうのが部分部分で年齢ごとに変わってくるんですよと。僕は詳しいことはわかりませんが、前頭葉が発達する時期とか、側頭葉が発達する時期というのは、刻々と週ごとに変わってくると。実は今、スマホ育児っていうのが問題になっていると思うんですけどもある一定の時期に、情報量を与え過ぎてしまうと、子どもの発育によくない影響が出てくるというようなことが、今研究されていますよと。だから実はアナログの中で得ることができるスキンシップであつたりとか、アタッチメントであつたりとか、コミュニケーションであつたりするのは、やはり親と子の関係の中で子どもの成長を考える中ですごく有効だと。仮にちょっとそういう前段の話があれば、一緒に絵本作りしようかというような導入っていうか、きっかけになるのではないかと、そういう何か組み合わせる来てもらうような状況をつくれなかなと、ちょっと

今そういうようなことも思っています。

以上です。

【O委員】

その延長ですが、先ほど高学年の子たちのパワーポイントの話をしたんですが、作ることに興味があるのではなくて、タブレットとかパソコンを使うことに興味があるんですね。多分中身はそんなに子どもたちは見ていないんです。そればかりずっと与えられてきて、私はまだ子どもたちに関わってまだ15年ぐらいなんですけど、この

15年ぐらいでも、子どもたちの何が変わったかって言われたら、今の子どもたちは自分で考えることをしなくなってしまって、応用力がなくなってしまって、与えられて、この枠の中に答えがあって、それはすごい探して、すごい解けるんですけど、じゃあそのほかに答えがあって、ちょっと応用、ちょっと問題をひねったりとかしたらもう何も考えなくなって、考えることをやめてしまって、もうわからないからやめると言うんです。それ以外に自分で考えようとする力が欠けてきている今、他のお母さん方も言ってることで、自分から行動しようとしなくて、与えられたものをそのままするとお母さん方は悩んでいます。

だからそういったことも踏まえて、応用力とかを鍛えるために、そういうところをターゲット当てて、案内をしてみてもいいのかなって思います。

【委員長】

ありがとうございます。

【H委員】

テレビが出て来たころのテレビっ子に、テレビばかり見てて何も考えないよという話の延長線上みたいな気がして。やっぱりこっちかって自分の頭の中で物を組み立てるといって、本読むとかそのあたりだと思うんですけども、我々テレビっ子になったら、そういうことを言われてたんじゃないかなという、そんな感じがしました。

【委員長】

そうでしょうね、受け身なんでしょうね。

【G委員】

受け身の姿勢になってるよっていうのは、よくないというふうに、その中でどう解決していくかと考えた方がいいのでは。

【L委員】

私はデジタルを使わせてということではなくて、子どもたちに任せてみる。その中

に、子どもたちがそれを道具として選ぶこともあるだろうと。先ほどおっしゃってましたように、放任で丸投げするというのではなくて、指導する人たち、質問されればそれに答えながら、船頭さんとして行き先を道筋を立ててあげる人たち、大人が必要ではあるでしょうけれども、子どもたちがやった感、自分たちが成しとげた感みたいなものを、例え一人や二人の子どもたちが実感してくれたとしても、それが子どもたちの中で広がっていくという意味で、子どもだちを信じましょうというか、大人が目線で見たところにたどり着くかどうかはちょっと置いておいて、やらせてみたらどうかと、これはちょっと私の持論で申しわけないんですけど、そういうことを思いました。

このごろの子どもたち、結構学校現場ではアクティブラーニングとか取り上げてやらなきゃならないというか、人の考え方、価値観を受け入れなきゃいけないというか、受け入れないと学びが進まないという、自分たちで待つという忍耐の学びの中で学んでいますので、結構子どもたちってパワーがあるのではないかと思っています。

【H委員】

昭和46年の入社試験でちょっと私、対応したことあったのですが、あのときからちょっと人種が変わったように感じたんです。つまり指示待ち人間が増えてきたんです。というようなことの延長で、今、スマホとかを考えてみると、また別の新しい同じようなことが起こっている可能性があるなというのは、子ども会の間で意見交換したときに、うちの孫はそんなの絶対に来ないわと。こればっかりいじってるし、声かけても返事もしないみたいな状態で、全ての子どもがそうだとはいえませんが、そこでもう一つ、先ほど事務局がおっしゃった、スマホ病ってあるみたいですよ。ですから、大人でさえそうなるのに、子どもの脳のやわらかい間にそれをするということは、先々どんな影響が出るのかという心配がありますよね。ですから、皆さん一同におっしゃっているように経験させるような形を作り上げていくという、そういう場所を、デジタルから離れた場所で作業をして、情報はもちろんデジタルからとったらいいわけですけれども、そういうようなことを今ふと思ったんです。

【O委員】

皆さんの御意見をお聞きしててふと思ったんですけども、すごく見方を変えて、逆に子どもたちが自立するとか、スマホ以上に興味を持つような講座をしますというアピールの中で課題が歴史であったりするほうが、親御さんとしては、こんなの子ども参加させてみたいなと思われるかもしれないなと思うんです。この歴史講座しますっていうこと自体が、ひょっとしたら昭和的な発想で、子どもさんの自立を高めるための講座をしましょうって言ったほうがいいのかと思って、かなり角度、見方が違うようになるんですけども、一つの意見として。

【委員長】

アプローチの仕方がね、歴史とか、防災自体ちょっと嫌なところかもしれませんので。F委員お願いします。

【F委員】

恐らくこのパイロットモデルの地区名を書かれていませんが、老上かと思うので。

【H委員】

実は多少歴史にも関わっているんです。

【F委員】

防災の専門の方もいらっしゃるし、恐らく館長の頭の中では、これはこの人にやってもらいたいとい具体的なものも浮かんだ上で、これを言ってくれていると思うんですけれども。私もこの老上のまちセンの和室につい先日、初めて入ったんですけれども。2階には上がったことあるんですけど、地域の人でもなかなかまちづくりセンターって、それぞれがどういう役割を持っているかによって、意外と入ったことなかったりする人がいっぱいいらっしゃる。

ここにある「老上昔々」「老上昔体験」こういうイベントをされたときに、参加させてもらったことがあるんです。まさに老上のときに。外に出て、地域を回っている色々な名所その歴史的なことのお話もされてというようなツアーをやったんです。子どもさんのほうがよく知ってますね、地域のそういうところのことは。

【M委員】

学習の中で3年生になると、2年生のときに町探求をしますので、すごい細かいところまで。

【F委員】

いきなり引っ越してきた大人のほうが知らない、そういう意味では、子どもから教わることってものすごくたくさんあるだろうなっていうふうに、この企画がそのまま通っていったら、できたものも楽しみ、これをつくるに当たって恐らく昔の話を聞くのはその地域で生まれるか、育った大人のおじいちゃんぐらいからまた聞いて。多分老上はまだやってないんですよ、「むかし絵図」。

【H委員】

やってないです。

【F委員】

取り残されているんですよ、老上。それができてないので、だからまだそういうお話を子どもにしたっていう大人もいないし、子どもさんもいい機会、実は小学1年

から3年生に絵を描くというのもやってもらうのかもしれませんが、世代間交流にもなる企画だろうなというふうには思います。

それと、防災はHさんがいらっしゃるし、エリア的な、地域的にこういうところがどうのこうのっていう地区の問題点っていうのを探し出すっていう、本当の防災の意味合いも、もしかしたら持てるかもしれないし、やり方によってはすごく広がっていく、課題解決っていう意味でも。

危ないんですよ。だから地区的な課題解決っていう問題にもなるし、世代間交流にもなるし。本当にやっていくにはいいかな、いい企画で進めていくと楽しいなど、その場の住民は思って、住民としての意見としてもおもしろいかなって。

【委員長】

またいい御指摘をいただきました。やっぱりこれ、大人の学びでもありますし、歴史と防災というのは、別に乱立してないので、非常に結びついている。歴史地理とですね。

【F委員】

かるた作りって必ず出てきますよね。いろいろな都道府県、各地で。

【委員長】

かるたっていうのは既にそういう専門家もいますので。

では、副委員長お願いします。

【副委員長】

パイロットモデルという形になっていますので、一つはこういった講座をやって、結果が形になるっていう意味では、今回提案されたことも結果が形になってそれを見んなに見ていただけるっていうのが一つ、それから残していけるっていう形では一ついい形だなというふうには思っています。

実は私、町内会のなんかで話していると、防災って大切なんだけど、どうやったらいいのか、パターン化したようなものはあるけれど、そればかりだとみんなついてこないし、どうやったらいい。大事だけど、どうしたらいいかというのは地域の人たちは悩んでいるところではあるんですよ。

もう一つは、今までスポーツ大会とかいろいろやってきて、もう少し文化的なことやらないといけないという気持ちがあるのと、正直なところ多分、私、団塊の世代の一番端っこぐらいなんですけれども、ちょうど私上ぐらいの世代から後ですね、実際地域のことを知らない世代があるんです。それまでは、私、農業地域ですから、みんなお百姓をして、だけど多分私たちよりも少し上の世代ぐらいから、会社に勤め出して、地域の中でいろいろな活動をしなくて、それで退職して、地域に目を向けて、歴史のことも全然わからないという世代なんです。だから私らの世代ぐらいは、

そうした地域の歴史に対してすごく興味を持っています。ここに挙がっている、多分私たちの世代の興味かなという気もしているんですけどね。

そういった切り口で、おっしゃっていたようにモデル事業なので、形が残る事業であるということが非常に評価できるわけですね。課題としても、防災って今言った地域の中で、世代から言うと多分今まちづくりのある意味中心を担っている人たちの共通の関心事項であるかなという気がしています。課題設定もそのあたりかなという。

多分、L委員がおっしゃったように告知の問題でいくと、一つはこの世界っていったら口コミの世界ですから、口コミで広げてもらえるような、興味を持つような切り口を出せるかどうかということと、もう一つは正直なところ、紙芝居とかるたっていう世代的には古くなって思っていて、子どもたちというのは、そこでメインで考えていくと、出口としてかるた、紙芝居ってというのは非常に典型的なもので、それが適切かどうかというのはいくつか検討してもいいかなという気はしています。興味を持たれずに、使われずになっていく形になってもいけない

紙芝居ってというのは、正直まだ展示できるっていうのはいいんですよ、その後。ただ、実際に、そのことが子どもたちの興味をひくものになるかどうかという意味では、その形としてはもう少し工夫があってもいいかなと思います。

【委員長】

はい、ありがとうございます。

パワーポイントも使える世代ですからね。大学生も使えないときもあつたりしますよね。今の子はすごいなと思います。

では、委員の皆様もいろいろな貴重な御意見をいただきましたので、ぜひ審議をお伝えいただくと同時に事務局のほうでも、しかしながら、我々はやっぱり政策として行っていく必要がありますから、その辺が適切な指導ないし体制の中で、もちろん自主性も重んじながら、しかしながらそういった世代協力としてきちんと行われるということを検討しながら、事務局でお進めいただくことをお願いしたい。

そして一つモデルを成功させていくという・・・おっしゃるように、ほかの地区にも波及できるように、お進めいただきたいなと思います。

【委員長】

それでは続きまして、「えふえむ草津」からの方に来ていただいていると伺っております。

【事務局】

「えふえむ草津」から11時に説明に来ていただけるとお伺いしておりますので、5分ほど休憩をとらせていただくか、もしくは歓談ということで。

(再 開)

【えふえむ草津】

ラジオというのは、避難所の状況であったり、先般、去年ですと、台風が来たんですけれども、そういったときにでも、今現在どういう状態かというのを、例えばそれが風速25メートルになりましたら、近江大橋も琵琶湖大橋も実はストップすると。それでそれは調べたらわかるわけですけども、ネットやらで調べたらわかるんですけども、悲しいかな、近江大橋につきましては、有料道路から無料道路に変わったばかりに、どこが情報を発信しているか誰も知らないという状況がございます。車で走りながら、こんな情報ってどこで手に入るのかと言うと、ラジオの周波性っていうのが車は非常に高いものがございます、そういう意味では交通情報というのは、とても大事な情報で、例えば、この間の台風でしたら、1時何分から4時まで封鎖されてますよっていうのをリアルタイムで伝えることができると。そして繰り返し、災害情報として流すことができる。今度はラジオの、このコミュニティFMラジオの持っている特性というのをフルに生かして、市民生活に密着した、そして市民と関わりがあるけれども行政では情報が得られない部分、そのすき間をFM局が拾っていけるのではと思っております。

そういったことで市民に浸透しますと、教育の部分でもこんなことをされてるということもわかったり、そのためには定時番組での教育番組だけではなしに、例えばパーソナリティーさんが担当していただいているところで、今こんな形で取り組まれているところありますとか、これがまた放送で流れますよといった情報提供を繰り返し、情報というのは繰り返し送ることによって初めて聞いてもらえると思いますので、繰り返し行っていくと。そういった形で、せっかく情報発信するツールがございますので、市であったり、教育委員会であったり、各行政機関であったりが利用いただければどうかと思ったりしています。

そういった手段を持っていないところは、例えば、労働基準局ですと、今、YouTubeでいろいろな労働の法制、働き方改革も変わってます中で、情報発信してますけれども、それはなかなか自分から求めないと見ていけないという部分がございますし、情報発信の手段を持っておられないところは非常にかわいそうだと思います。そう思うとせっかく草津に、草津市を対象にした情報発信の道具はあるのだから、もっと行政やら、いわゆる公の機関も、そして市民活動も、団体も、寄せてもらったらどうかというふうに思っております、私どもは積極的に番組を開放したいと、それがコミュニティFMの役割かもしれないと思っております。

そのために集める手段を今、一生懸命模索して、各まちづくり協議会であったり、幼小中であったり、学校宛てに告知、大きなイベントも含めまして告知やりますので、こういうような様式に簡単にまとめたら、またパーソナリティーが確認しますという形で、10周年を記念して取り組みを進めようと思っております。

ちょっと長々とすみませんでした。

【委員長】

L 委員、何かありましたか。

【L 委員】

多分、これだろうなと思って今、入手しましたので。

多分ね、あれですね、オンデマンド。今は見えないですね。

内容によっては要るんじゃない。

無料ですか。

【えふえむ草津】

はい、無料です。

【事務局】

その中で音声だけでは多分わかりにくい部分があったりしますので、今後、著作権の関係がクリアできるなら、当然映像か動画でいきたいし、そしてもし、資料の提供をいただけるならPDFであろうが、そこに添付して、学習資料として一般市民向けで、広く知らしめる役割を持てる講座でしたら、資料も一緒に見られるようにしたいなと思っております。

草津も外国籍住民の方が多い、特に労働層というよりは、立命館大学ございますので、留学生が多いというのが、草津の特色になっています。そういう意味では、何か国語が、ポルトガル語も多いんですけども、必要というようなことは感じております。

市にほうとかも、その5カ国語やったと思うんですけども、抜粋をして、外国籍の住民の方にか知っていただきたい情報については、流しているところです。

【委員長】

ありがとうございます。

【副委員長】

私もなかなか、ラジオというのは基本的には災害に強いという、それしか認識がなかったですね。普段のライフスタイルの中では、ラジオ申しわけないけど、余り入ってないですね。

そういう意味では、今聞きましたように、もしもっと興味のあるものがあれば、準備したいなと思いますけれども、音声情報というのはBGM的に流れる、バックグラウンドとして流れるもんですね、普通ね。それを思うと、市内でそういうふうに「えふえむ草津」が流れてる拠点があるかどうかという。よく耳にするのは、ガソリンスタンドでラジオ情報流れてますね。そのとき本当に「えふえむ草津」を選んでもらっているのかどうかという、多分そんな部分じゃないかなと。それにそのBGMに耐え

る情報が流れているかどうかという、そういう話だと思います。

【委員長】

はい、C委員。

【C委員】

私は日常生活でラジオをよく聞いています。スマホのアプリでも、radikoを入れて、そのいい場面というか、もう一回聞きたい、聞き逃したところをもう一回聞けるとか、自分、あそこもう一回ちょっと知っておきたいとか、大事な放送があったのに聞けなくて、聞き逃しをもう一回聞くというところはすごく強みやなと思って今、聞いていました。

ラジオの良さというか、作業をしながらで聞けるというのが、本当にいいことだなと思っていますので、ぜひこういうのを力として発信できたらいいんじゃないかなという事は感じました。

【委員長】

ありがとうございます。

O委員、お願いします。

【O委員】

私はラジオは車で流れているんですけども、さっきH委員がおっしゃってたみたいに「えふえむ草津」が聞ける地域が限られてるっていうのが大きいので、多分車で聞いたはる人って結構多いと思うんですよ。その中で、車で走ってて、あるところで聞こえなくなる。それに対して、今まですごいもう情報とか多いから、それがすごいストレスに感じる。とまってしまうことが、ストレスに感じてしまって、そしたらちょっと聞けるのにしようかなとか、正直なところ、そういう意見も絶対あると思うんです。

あとは、「えふえむ草津」自体の認知度をもっと広めないで、利用活用していくんだったら。多分個人的には進んでいかないんじゃないかなっていうところもありました。

【委員長】

わかりました。E委員どうぞ。

【E委員】

僕は草津市内にいるときはできるだけ「えふえむ草津」を聞いてます。ほとんど車移動の場合はラジオをずっと聞きっ放しのことが多いんですけど、仕事柄、電話でしゃべることが多いので、親身に聞けてるかってわけじゃないですけども、ラジオっ

ていうのはいろいろな、土日、平日含めの時間帯もいろいろな情報が流れてくるので、毎日の中で、朝乗ったらすぐラジオはついてるんですけど、「えふえむ草津」はたまに演歌の時間帯があるんですよ。それはそれで気分転換にいいのかなと思いますし、現場に行くと、結構みんな職人さんってFMの入るラジオ置いていることが多くて、人それぞれ聞いている内容によっても違うと思うんですけど、こういう僕らの業界も、草津で仕事をしている職人さんに興味持ってもらったら、もっと草津の情報も流れていくといいのかなと。あとまちづくりセンターへ行っても、結構しんとしてるので、「えふえむ草津」が流れてたら、もっといろいろな人の情報も、耳で聞きながら、しゃべりながら、バックミュージック的じゃないですけども、流れているのを市内いろいろな市民センターに行きますけれども、一番にかけてもらっているか、鳴らしてもらってもいいのかなというふうに思いますね。まして、生涯学習のこういう情報がどんどん流れてくるようなこともあれば余計にいいかなと思います。

【委員長】

ありがとうございます。

じゃあH委員。

【H委員】

ラジオを聞くのは昭和30年までで、改めて聞くちゅうのもほとんどなくて上げてますけれども、車とか、私ね、トイレの中で聞くんですよ。そうすると、番組的におもしろいなと思うのは、夏休みとか、春休みに子ども何とか相談室とかってというのが何かあって、あれが非常におもしろい。それから最近ですと、また子ども向けに、ちょっと今言葉に出てこないですけども、自由奔放にしゃべらせるみたいな番組があって、やっぱり「えふえむ草津」もっと子どもを意識したのをやられたら、もっと人気が出るかもしれないということと、それとF委員に前にお話してたんですけど、私は大津との境目に住んでいるんですけど、やっぱりFMちょっとね、途切れたりするわけですね。ですから、先ほどビルがどんどん建つというお話もありましたけれども、そういう環境的な問題もあるという感じはします。その辺です。

【委員長】

はい、ありがとうございます。

【G委員】

私も全くラジオは聞きません、ずっと。先ほど「えふえむ草津」ということで、これから聞かないかなと思ってますけど、ちょっと聞きたいんですけど、地域の情報を仕入れるんですね。仕入れてそれを発信するんですね。

例えばちょっとお聞きしますけど、3月23日に、今度、全国ソフトボール大会中学校のがあるんです。これは御存じですかね。

【えふえむ草津】

僕は事業団の関係で総合体育館というか、合同会社の指定管理を受けていますので、そのお話は知ってます。

それ自体が私どもの放送局としての取り組みとしてはいいです。

【G委員】

私は志津学区に住んでますので、高穂中学校の女子が全国大会で松山に行くということで、私も全然そういうのあるって知らなくて、甲子園だったらよく知ってますけど、そういうのは全然知らなくて、たまたま地域の方が、お子さんが出ること、すごいと思って。活躍しているのをどどん発信してくれたら。そういうのが草津やから、そういうのを仕入れてくるのかな。

【えふえむ草津】

そうです。そういう形で草津の子たちが活躍していける部分を、例えばこのような形で出るのでよというのを、情報を収集する手段として、そういうA4ぐらいにまとまるようなやつを誰でもが出せる状態を作ろうと思ってます。それがあって、これは放送すべきというのをパーソナリティさんが判断できますので、情報さえまずトータル的に集まるようにしていったら、文化であろうが、スポーツだろうが、発信していけたら草津自体の視点でそれを情報として整理できるやろなと思ってます。

【委員長】

ありがとうございます。

じゃあ、C委員どうぞ。

【C委員】

特にはないですけども、私もラジオというものをふだん聞かないものですから、オンデマンドはいいかなと思います。オンデマンドというのは、NHKの語学講座ぐらいしか利用しないんですけど、今は忙しい若いお母さんたちがラジオを聞けるといってそうではないので、オンデマンドはありがたいんじゃないかなと思ったりします。

【委員長】

副委員長いかがですか。

【副委員長】

さっきのパイロットモデルの話とも続けていくと、多分このパイロットモデル事業、大体七、八回それぞれ講座が予定されてますので、近く結果、形になるというお話なんですけど、もう一つはそれに取り組んで、それができ上がっていく課程、これがきち

っとみんなに伝わればいいなと思ってですね、そうした形で「えふえむ草津」の情報発信は、単に情報発信するのではなくて、そうした取り組みの中でいろいろと感じられたことなどを取り上げていくと、途中で参加しようという人も出てくるかもしれないし、そういう人たちが情報を受けられるようなものになっていくといいな。そうした形でも生かせるのかなというのを考えてます。正直私も、「えふえむ草津」合わせるんですが、どうしても雑音が入ってしまいます。

もう一つ、聞いてくれる人をふやすというよりも、強制的に聞かせるというか、先ほどおっしゃったように、公の場というか、公共のところで、パブリックスペースで「えふえむ草津」が流れるようなそうしたところを開拓して行って、少しでも「えふえむ草津」ってのがあるんだっていうことを認知してもらうことも大切かなということ聞きながら考えていました。

以上です。

【委員長】

はい、ありがとうございます。

皆さん、いろいろな御意見をいただきまして、私ごとですけれども、さっきF委員が認知症予防にいいですよとお話いただきましたけれども、私は非常に共感しまして、先週、私ごとですけれども、私のおふくろが高齢者ですけれども、家の中で転倒しまして、肋骨を3本折る重傷でございまして、先週から入院してるんですけど、皆さんああいうお部屋に行かれると、一応テレビはついてるんですよ。だけど、テレビ見ないですね。高齢者ですから、もとよりインターネットやスマホなんて見れない。何してるかという、ラジオ聞いているんです。

ラジオというのは、今の時代の中では非常に古いようなイメージですけれども、実はすごく有効だということが、最近私も広く実感しているところです。高齢者になりますと、テレビもうるさくてよく見れないとか、そうするとやっぱり原点で、ラジオって非常に……。ですから今日は委員の皆さんのおかげで御意見いただきましたけれども、またえふえむ草津も、非常に革新的な、ある意味野心的な取組みをされようとしているところがございますので、ぜひまたいろいろな方面に有効に使っていただいて、また社会整備とぜひ結びつけていただいでですね、発信していただきたいと期待したいと思います。

それでは、「えふえむ草津」からの情報提供にいたしましては、以上で終わります。どうもありがとうございました。

それでは、その他に入りたいと思います。次回の委員会につきまして、事務連絡を事務局からお願いします。

【事務局】

今年度は2回の開催でございましたが、来年度につきましては、4回程度の開催というふうに考えているところでございます。本日いただいた御意見等は整理させてい

ただきまして、また委員長と調整の後、各委員様については日程調整をさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

以上でございます。

【委員長】

その他、何か全体を通しまして御連絡等ございましたら。

次回、いつごろになりそうですか。

【事務局】

中身をまず決めてから、日程を確認させていただくほうがいいのかなと思ってまして、4月から地域でもとより進めていただきますので、それが一定進んでからさせていただくのか、それとも進む前にするのかというのを、また調整させていただきたいというふうに考えております。

【委員長】

いつからパイロットモデルが進められるかということもありますよね。

【事務局】

予定としましては、4月からもう進めていくということで聞いてはおります。

【委員長】

そこである程度実績というんですか、どんな感じになったかを踏まえて。

【事務局】

5月、6月ぐらいで。

【委員長】

そうですね。

【事務局】

1回目の開催ができるかなというふうに考えております。

【委員長】

じゃあ、それまでの間、また皆さん、しばしの別れになりますので、また元気でお会いできますように。よろしく願いします。

本日は、この辺で終わります。どうもありがとうございました。